



小谷城戦国体験ミュージアム計画再考の請願

請願の趣旨

長浜市が現在計画中の小谷城戦国体験ミュージアムは、情報開示が不十分なため市民参加がなく、博物館として中途半端で、地域振興のビジョンがないなど多くの問題点を抱えており、国の地域未来交付金目当ての箱物行政と言わざるを得ず、将来負の遺産となることが懸念されます。

博物館は、従前の調査研究、展示公開、保存継承、教育普及の4つの機能に加えて、近年は魅力の拠点とするために、重要文化財級の建物でも飲食ができるように法改正がなされています。小谷には日本が世界に発信し得る文化があり、「戦国体験」では偏狭すぎます。整備にあたっては、広い駐車場や広場、ドライブイン機能を有し、何より清水谷と小谷山全体を生かす必要があります。施設整備にあたっては、セミナールームや収蔵庫の整備は必須の機能と考えます。

市民がチエとカネを出し合って築き上げた長浜城歴史博物館の完成は市民の愛郷心に火がつき、その後の長浜のまちづくりに大きな変化をもたらしました。小谷も、小谷城プロジェクトという大きな構想のもとに、その一環として「小谷城ミュージアム」を位置づけ、現計画を躊躇なく見直し、市民が誇りにでき地域の未来が開けるもっとよいミュージアムとなるように、現計画を再考されるよう請願します。

小谷城戦国体験ミュージアム計画再考を求める理由

何のために、誰のために造るのか、巨額投資に対する入館目標の低さや経営的視点のなさ等、厳しい長浜市財政の中で、税金の無駄遣いという市民の声が強いため私はあえて請願に至りました。市民の不満は、費用対効果、地域振興ビジョンのなさ、住民目線のなさ、親方日の丸のお役所仕事に向けられており、計画内容、経緯が説明されてこなかった市の広報広聴体制の機能不全にもあります。

市民のための生涯学習施設としては巨額投資であり、観光客誘致を図るには「戦国体験」の呼称が安っぽく視えます。計画事業費から関ヶ原歴史館以上のものは期待できないでしょう。小谷の売りは浅井三代とその時代だけではありません。そこを行政がどう認識しているかが問われています。

まずは建設場所。広い駐車場とイベント広場が確保できません。来館者が覚知しにくい場所です。施設の規模は市内のまちづくりセンター以下の建て面積です。そこで魅力ある展示展開ができるのでしょうか。安土城以上の小谷の価値が見落とされています。

博物館法に基づくミュージアムとするなら、セミナールームや十分な収蔵施設はあるのでしょうか。展示計画やそのコンセプトが示されていません。これからのミュージアムにはカフェやレストラン等の魅力も求められます。

なぜ長浜城建設時のような市民参加を得、市民や企業の寄付を積極的に募ろうとされないのでしょうか。長浜城には8,000人を超える市民・企業が4億3,000万円もの寄付を寄せました。市民の誇るべき財産をつくろうとするなら、コンサル任せでなく市民の知恵を集めるべきです。なぜ朝倉氏の一乗谷のように遺跡発掘調査を優先されないのでしょうか。清水谷の発掘、山上城址整備が何より優先され、山上の樹木を伐採して展望を確保することから始まると思われまます。

いま、世界は日本に対して2つの点に注目しているようです。一つは災害時にも見られる日本人の秩序正しさ、礼儀正しさ、「義」の精神はどこから培われたのか、二つ目はドイツと並ぶ日本の技術力はいつの時代に日本のどこで生まれたか、という点のようです。その二つが北近江の小谷城下にあるとイギリスやスウェーデンの研究者は感嘆されていました。

かかる内容を踏まえ、国内はもちろん、世界に通じる小谷城ミュージアムとするために、計画内容を根底から見直し、真に地域の未来を拓くミュージアムとされるよう請願します。